

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500365		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホームファミリア 1F(フローレンス)		
所在地	仙台市泉区南光台7丁目1-21		
自己評価作成日	平成30年9月1日	評価結果市町村受理日	

#### ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年3月30日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人に添った介護サービスが提供できます様に、毎月のカンファレンス及び日々の状態変化等を申し送りを通じて職員が共有し安定したサービスが提供できるよう努めております。  
毎日、午前・午後に残存機能維持を目的に、日常生活リハビリ・レクリエーション又音楽療法に特に力を入れ行っております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は泉区南光台の高台に位置し、2016年に開所した日当たりの良い2階建て2ユニットである。母体法人の「医療法人一秀会」はグループホーム、ケアハウス、介護老人保健施設など宮城県や岩手県に幅広い介護サービスを運営している。事業所の隣にある同法人介護老人保健施設「プレシオン」とは、看護師による定期的な健康管理、職員研修の合同開催、災害時の非常用食料等の備蓄、また毎日3食分副菜が配食されるなど協力連携を図っている。法人理念「あなたの大切なものを守ります」を基に作成した、事業所理念の一つ「どんな時にも安心できるよう接します。」を念頭に、常に利用者が不安感を抱えてないか、安心して過ごせているか、職員間で状況を把握して取り組んでいる。居室担当制を設け、担当職員を中心にモニタリングを行い、毎月のカンファレンスで情報共有し、受診日の把握や薬の管理、家族との連絡等も行っている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームファミリア ）「フローレンス」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を根拠に事業所理念を作成し日々業務時に理念共有し実践に繋げております	法人理念を基に、事業所理念「いつも笑顔で接します」「いつもおそばの気持ちで接します」等、職員が実践に反映しやすく分かりやすいよう明文化し作成した。理念を確認しやすいところに掲示し、昼礼で唱和している。利用者が不安を抱えないよう、安心して過ごせることを目指して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議等を通じて情報の発信、又認知症啓蒙活動として地域にチラシの戸別配布等を行い交流に努めております。	町内会に加入しているが、地域行事などはコロナ禍で中止になっている。例年は、認知症等の相談窓口を設けていることを広報するためにパンフレットを作成し地域に配布していた。感染予防をしながら、利用者と一緒にハロウィンで渡すお菓子を準備し、来訪した地域の英会話教室の先生や子どもたちに渡すなど、できるだけ今までの繋がりが途切れないうように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社団法人認知症家族の会に入会し事業所としての取り組みを発信しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議等を通じ日々のケア実践情報を報告し、要望・希望を取り入れサービスの向上に繋げております。	例年は、隔月に町内会長、地域包括職員、民生委員、認知症家族の会元会長、家族が参加し開催していたが、コロナ禍のため開催できていない。	利用者や運営状況の報告などを、会議メンバーへ文書などで報告し、意見を聞き運営に反映できる仕組み作りを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南光台地域包括支援センターと協力関係を頂きながら地域運営推進会議等を通じケアサービスの実情を報告しております。	区役所には必要な報告など随時行い、コロナ禍の状況やワクチン接種の情報を得ている。地域包括支援センターとは部屋の空き情報の連絡や相談等している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期研修の中で身体拘束について勉強会を行っております。	毎月、職員会議の中で「身体拘束適正対策勉強会」を行い、何が身体拘束にあたるかを確認している。帰宅願望が強い利用者には、言葉掛けで対応している。防犯上、玄関にカメラを設置し、事務所のモニターで確認ができる。施錠は20時から5時半迄である。離床センサーマットを使用している人もいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期研修の中で高齢者虐待防止の為の勉強会を行っております。	高齢者虐待防止の勉強会をマニュアルを用いて定期的に開催している。言葉遣いは『お客様』という意識を持ち対応している。待たせる場合は理由や、いつまでなのかを明確に伝えている。管理者は職員と年1回、面談し精神的な負担を抱えないよう、相談や意見を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症家族の会で行った権利擁護と日常生活支援事業については職員全体での把握・活用は行っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約については重要事項説明を通じ理解・納得の上行っております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関し、苦情・相談及び要望・希望については地域運営推進会議の中で家族代表様から意見を頂戴し実践しております。	感染症対策のため家族面会を制限している。要望があれば感染予防を徹底し、玄関先で短時間ガラス越しで面会できるよう支援している。ユニット毎に、電話対応を行ったり、利用者の状況を手紙で送付することもある。以前は請求書と一緒に利用者の状況を手紙にし送付していたが、事務手続きが変更になり同封していない。	コロナ禍で家族と利用者の面会が制限されているので、事業所として家族に利用者の日々の様子を知らせる方法などについて検討することを期待する。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス会議の中で意見、提案を発信する場を設けております。	ユニット会議などで職員から意見、要望を聞いている。職員から出された提案や意見を検討し、運営に生かしている。備品を見直したことでスムーズに支援が行えるようになり改善に繋がった。管理者との面談も行われている。実務者研修や資格取得の際は、シフト変更や資金面でも支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の法人代表への報告会において現状の問題点、改善点等を報告しております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仙台圏の同法人事業所が集まり研修会を開き認知症介護勉強会にも参加しております。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	開設前後から他の事業所、施設等と交流する機会を設けネットワーク作りに努めております。	法人主催の合同研修に参加している。参加している仙台圏内にある事業所と情報交換や交流を深めながら、連携に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント又入居時の契約時に生活歴等を詳しく書面に記入して頂き日々のケアに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時のアセスメントから困難な支障をお聞きしサービスに繋げられるよう職員間で共有しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時又は入居後に他のサービス利用を検討し実践しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人〃認知症状も違う中で基本、寄り添う気持ちで接し、信頼関係の構築に努めております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共同生活理念のもと、ともにを念頭に御家族様には面会、外出をお願いしております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人間関係においては、ご本人の意見を尊重し支援に努めるようにしております。	コロナ禍のため友人や知人との面会は制限されている。家族が付き添い受診する際が、外出の機会となっており、病院受診も医師からの来院要請がある場合のみとし、現在は感染予防を重視して対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状も違う中で社会生活継続の理念を念頭に介在する場面においては支援するべく努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、随時連絡可能の説明を行い関係性が途切れる事のないように努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現状の思いを職員共有のもと日々のケア、声かけにおいて実践しております。	アセスメントは3ヶ月毎に行い、本人や家族の意向を確認している。思いの把握が困難な人は、ケアの中から得た情報を申し送りノートに記録し職員間で情報共有しながら、職員の対応が統一できるように努めている。入居時やこれまでの生活歴からも把握し、利用者は得意な編み物など趣味を継続できるよう支援している。洗濯物のたたみやテーブルを拭くなど日常生活の中の役割もできるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の契約時に、これまでの生活歴、人生歴を御家族様から書面に記入して頂き職員共有のもとケアを開始しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人〃を職員が担当し毎月のカンファレンスにおいて変化、現状維持等を話し合い支援に努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにおいてお一人〃を職員が担当しモニタリングを行い介護計画に反映できるように努めております。	担当職員が毎月モニタリングを行い、短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月で、状態に変化があれば都度、介護計画を見直している。例年は担当者会議に家族が出席し意向を確認し同意を得ていた。今後、毎月行っているモニタリングの情報も家族に報告しながら、要望や意向の確認、説明、同意が行われるように検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態、変化等を帳票記入し申し送り等を通じて情報共有し実践しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に、外来受診等を御家族様にお願いしておりますが都合上困難な場合は職員が対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	南光台地域包括支援センター定期交流の場において地域資源の把握に努めております。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、変化等を介護サマリー提出など行い適切な医療を受けられるように努めております。	入居前からのかかりつけ医を受診する人もおり、基本通院は家族が付き添っている。利用者のバイタルなど日々の情報を文書にして提供し、適切に受診ができるよう支援している。週1回、法人の看護師が健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護ST看護師の来所時に、変化、報告を行い必要時の受診依頼や看護を受けられる体制に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	開設前後から医療機関との関係作りを始め受け入れ態勢の報告等、関係作りを構築しております。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時においてご家族、ご本人が望まれる終末期において希望を取り入れるべく説明しております。	入居時に重度化対応に関わる指針について説明している。重度化や終末期と医師が診断した時は、医師、家族と話し合い方針を決めている。また、看護師、ケアマネジャー、職員で看取りに関する介護計画を作成して家族に説明し、同意を得ている。看取り介護について都度、職員に指導をしながら支援している。看取り後には振り返りを行い、看護師や管理者がグリーフケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時の救急訓練を始め定期研修の中で行っております。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練等を通じ職員全体が認識できるように努めております。	年2回、夜間想定を含め避難訓練を実施し、消防設備点検も業者が年2回実施している。隣接する同法人の老人保健施設が、非常用の食料等の備蓄を行っており、連携している。感染症対策は消毒、マスク着用、換気を徹底して行い、密なところには出掛けけない等、対策を定め職員同士で意識を高めて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期研修(接遇)において理解を深め、又日々の関りの中での声かけ等には十分に留意しております。	接遇、プライバシーの確保の研修を定期的に行っている。職員は利用者に寄り添い、声掛けのトーンや大きさ、スピーチロックにならないように、言葉遣いにも配慮し支援している。トイレ介助時はさりげなく声掛けし誘導し、ドアを開けたままにしないよう徹底している。呼び名は利用者に要望を聞き、「さん」付けで呼んでいが、希望により「ちゃん」付けの人もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いが表現出来るように普段から関係性作りに努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に業務優先ではなく、ケア優先の必要性を日々職員間で共有し実践しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る部分を阻害する事無く状態に合わせた支援に努めております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る部分の見極め、状態に合わせた食事の提供に努めるべく行っております。	副菜は3食とも隣接する老人保健施設から届けられている。事業所では主食とみそ汁を作り、届けられた副菜を温め直して提供している。敬老会や誕生会には寿司の出前をするなど、楽しく食事ができるよう努めている。利用者の状態に合わせ、事業所できざみ食、トロミ食など食べやすくアレンジして提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理された食事を提供し状態に合わせたカロリーが摂取出来るよう栄養補助食品等を使用し体調維持に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時に応じ訪問歯科診療を受け出来る部分を阻害する事無くケアの実践をしております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易なポータブルトイレを使用する事無く出来る部分を阻害する事無く排泄が出来るように支援しております。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はリハパンを使用したり、タイミングに合わせてトイレに誘導するなど、トイレで排泄ができるよう支援している。夜間はポータブルトイレや紙おむつ、トイレ誘導など利用者に合わせて支援している。便秘対策にはゼリーや乳製品を摂ったり、医師が処方する薬を使用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケア記録、申し送り等から排泄状況を把握して必要時に排便を促すお茶等の提供と日々の体操を行っております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調から又は拒否等もあり定期入浴ができない場合、又は希望に沿った入浴が出来るよう柔軟な支援に努めております。	週2回を基本に、湯は都度交換し入浴支援している。できるだけ希望にそい、入浴できるよう支援しているが、状態を見てシャワー浴等に変更するなど清潔保持に努めている。入浴拒否がある場合は、職員を替えるなど対応を工夫している。入浴剤を使用し香りを楽しみながら入浴する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた就寝時間帯の支援、安心できる環境と声かけに努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	委員会の委員が処方箋管理を行い処方薬変更の場合の職員共有に努め、用法、用量については職員全体が共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、笑顔が出せるような、雰囲気作り、楽しみを日々の関り、又はレクリエーション・活動で行っております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	閉鎖的になりがちなホーム生活を御家族と協力しながら本人の希望が叶えられますよう支援を行っております。	感染予防を重視し取り組んでおり、今年度の外出支援はほとんどできていない。今後状況を見ながら、ホーム内委員会で検討する予定になっている。室内で行うレクリエーションを増やし、気分転換になるよう努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金体制は行っておりませんが少額のお金を所持する事は厭わず支援に努めております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からのお手紙、馴染の関係からの封書等の支援を行っております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に合わせた居室ドアの不快な光等を遮り共有スペースにおいては季節感が味わえるように配慮しております。	リビングは南に面しており、陽射しが入り明るい。時計やトイレの表示は見当識に配慮し設置してある。くつろげるようソファを置いている。大きなぬいぐるみやお雛様、季節を感じさせる手作りの貼り絵などが飾られている。温・湿度は職員が管理し感染症対策や換気も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置等、利用者様に合わせて提供出来るように支援を行っております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人に合わせた家具等が使用できるよう説明し好みに合わせた配置等を行っております。	居室の入り口には、利用者の名前か花の名が書かれた表札が掛けられている。エアコン、低床型ベッド、クローゼット、洗面台、ナースコールが備え付けてある。利用者は過ごしやすいう、馴染みの物やテレビなどを持ち込んでいる。居室担当職員が部屋の整理を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペース、居住スペースのバリアフリーはもとより状態に合わせ自立した生活が出来るような構造になってます。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500365		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホームファミリア 2F(セルバ)		
所在地	仙台市泉区南光台7丁目1-21		
自己評価作成日	平成30年9月1日	評価結果市町村受理日	

#### ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年3月30日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人に添った介護サービスが提供できます様に、毎月のカンファレンス及び日々の状態変化等を申し送りを通じて職員が共有し安定したサービスが提供できるよう努めております。  
毎日、午前・午後に残存機能維持を目的に、日常生活リハビリ・レクリエーション又音楽療法に特に力を入れ行っております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は泉区南光台の高台に位置し、2016年に開所した日当たりの良い2階建て2ユニットである。母体法人の「医療法人一秀会」はグループホーム、ケアハウス、介護老人保健施設など宮城県や岩手県に幅広い介護サービスを運営している。事業所の隣にある同法人介護老人保健施設「プレシオン」とは、看護師による定期的な健康管理、職員研修の合同開催、災害時の非常用食料等の備蓄、また毎日3食分副菜が配食されるなど協力連携を図っている。法人理念「あなたの大切なものを守ります」を基に作成した、事業所理念の一つ「どんな時にも安心できるよう接します。」を念頭に、常に利用者が不安感を抱えてないか、安心して過ごせているか、職員間で状況を把握して取り組んでいる。居室担当制を設け、担当職員を中心にモニタリングを行い、毎月のカンファレンスで情報共有し、受診日の把握や薬の管理、家族との連絡等も行っている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームファミリア ）「セルバ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を根拠に事業所理念を作成し日々業務時に理念共有し実践に繋げております。	法人理念を基に、事業所理念「いつも笑顔で接します」「いつもおそばの気持ちで接します」等、職員が実践に反映しやすく分かりやすいよう明文化し作成した。理念を確認しやすいところに掲示し、昼礼で唱和している。利用者が不安を抱えないよう、安心して過ごせることを目指して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議等を通じて情報の発信、又認知症啓蒙活動として地域にチラシの戸別配布等を行い交流に努めております。	町内会に加入しているが、地域行事などはコロナ禍で中止になっている。例年は、認知症等の相談窓口を設けていることを広報するためにパンフレットを作成し地域に配布していた。感染予防をしながら、利用者と一緒にハロウィンで渡すお菓子を準備し、来訪した地域の英会話教室の先生や子どもたちに渡すなど、できるだけ今までの繋がりが途切れないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社団法人認知症家族の会に入会し事業所としての取り組みを発信しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議等を通じ日々のケア実践情報を報告し、要望・希望を取り入れサービスの向上に繋げております。	例年は、隔月に町内会長、地域包括職員、民生委員、認知症家族の会元会長、家族が参加し開催していたが、コロナ禍のため開催できていない。	利用者や運営状況の報告などを、会議メンバーへ文書などで報告し、意見を聞き運営に反映できる仕組み作りを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南光台地域包括支援センターと協力関係を頂きながら地域運営推進会議等を通じケアサービスの実情を報告しております。	区役所には必要な報告など随時行い、コロナ禍の状況やワクチン接種の情報を得ている。地域包括支援センターとは部屋の空き情報の連絡や相談等している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期研修の中で身体拘束について勉強会を行っております。	毎月、職員会議の中で「身体拘束適正対策勉強会」を行い、何が身体拘束にあたるかを確認している。帰宅願望が強い利用者には、言葉掛けで対応している。防犯上、玄関にカメラを設置し、事務所のモニターで確認ができる。施錠は20時から5時半迄である。離床センサーマットを使用している人もいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期研修の中で高齢者虐待防止の為の勉強会を行っております。	高齢者虐待防止の勉強会をマニュアルを用いて定期的に開催している。言葉遣いは『お客様』という意識を持ち対応している。待たせる場合は理由や、いつまでなのかを明確に伝えている。管理者は職員と年1回、面談し精神的な負担を抱えないよう、相談や意見を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症家族の会で行った権利擁護と日常生活支援事業については職員全体での把握・活用は行っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約については重要事項説明を通じ理解・納得の上行っております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関し、苦情・相談及び要望・希望については地域運営推進会議の中で家族代表様から意見を頂戴し実戦しております。	感染症対策のため家族面会を制限している。要望があれば感染予防を徹底し、玄関先で短時間ガラス越しで面会できるよう支援している。ユニット毎に、電話対応を行ったり、利用者の状況を手紙で送付することもある。以前は請求書と一緒に利用者の状況を手紙にし送付していたが、事務手続きが変更になり同封していない。	コロナ禍で家族と利用者の面会が制限されているので、事業所として家族に利用者の日々の様子を知らせる方法などについて検討することを期待する。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス会議の中で意見、提案を発信する場を設けております。	ユニット会議などで職員から意見、要望を聞いている。職員から出された提案や意見を検討し、運営に生かしている。備品を見直したことでスムーズに支援が行えるようになり改善に繋がった。管理者との面談も行われている。実務者研修や資格取得の際は、シフト変更や資金面でも支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の法人代表への報告会において現状の問題点、改善点等を報告しております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仙台圏の同法人事業所が集まり研修会を開き認知症介護勉強会にも参加しております。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	開設前後から他の事業所、施設等と交流する機会を設けネットワーク作りに努めております。	法人主催の合同研修に参加している。参加している仙台圏内にある事業所と情報交換や交流を深めながら、連携に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント又入居時の契約時に生活歴等を詳しく書面に記入して頂き日々のケアに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時のアセスメントから困難な支障をお聞きしサービスに繋げられるよう職員間で共有しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時又は入居後に他のサービス利用を検討し実践しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人〃認知症状も違う中で基本、寄り添う気持ちで接し、信頼関係の構築に努めております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共同生活理念のもと、ともにを念頭に御家族様には面会、外出をお願いしております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人間関係においては、ご本人の意見を尊重し支援に努めるようにしております。	コロナ禍のため友人や知人との面会は制限されている。家族が付き添い受診する際が、外出の機会となっており、病院受診も医師からの来院要請がある場合のみとし、現在は感染予防を重視して対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状も違う中で社会生活継続の理念を念頭に介在する場面においては支援するべく努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、随時連絡可能の説明を行い関係性が途切れる事のないように努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現状の思いを職員共有のもと日々のケア、声かけにおいて実践しております。	アセスメントは3ヶ月毎に行い、本人や家族の意向を確認している。思いの把握が困難な人は、ケアの中から得た情報を申し送りノートに記録し職員間で情報共有しながら、職員の対応が統一できるように努めている。入居時やこれまでの生活歴からも把握し、利用者は得意な編み物など趣味を継続できるよう支援している。洗濯物のたたみやテーブルを拭くなど日常生活の中の役割もできるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の契約時に、これまでの生活歴、人生歴を御家族様から書面に記入して頂き職員共有のもとケアを開始しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人〃を職員が担当し毎月のカンファレンスにおいて変化、現状維持等を話し合い支援に努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにおいてお一人〃を職員が担当しモニタリングを行い介護計画に反映できるように努めております。	担当職員が毎月モニタリングを行い、短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月で、状態に変化があれば都度、介護計画を見直している。例年は担当者会議に家族が出席し意向を確認し同意を得ていた。今後、毎月行っているモニタリングの情報も家族に報告しながら、要望や意向の確認、説明、同意が行われるように検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態、変化等を帳票記入し申し送り等を通じて情報共有し実践しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に、外来受診等を御家族様にお願いしておりますが都合上困難な場合は職員が対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	南光台地域包括支援センター定期交流の場において地域資源の把握に努めております。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、変化等を介護サマリー提出など行い適切な医療を受けられるように努めております。	入居前からのかかりつけ医を受診する人もおり、基本通院は家族が付き添っている。利用者のバイタルなど日々の情報を文書にして提供し、適切に受診ができるよう支援している。週1回、法人の看護師が健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護ST看護師の来所時に、変化、報告を行い必要時の受診依頼や看護を受けられる体制に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	開設前後から医療機関との関係作りを始め受け入れ態勢の報告等、関係作りを構築しております。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時においてご家族、ご本人が望まれる終末期において希望を取り入れるべく説明しております。	入居時に重度化対応に関わる指針について説明している。重度化や終末期と医師が診断した時は、医師、家族と話し合い方針を決めている。また、看護師、ケアマネジャー、職員で看取りに関する介護計画を作成して家族に説明し、同意を得ている。看取り介護について都度、職員に指導をしながら支援している。看取り後には振り返りを行い、看護師や管理者がグリーフケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時の救急訓練を始め定期研修の中で行っております。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練等を通じ職員全体が認識できるように努めております。	年2回、夜間想定を含め避難訓練を実施し、消防設備点検も業者が年2回実施している。隣接する同法人の老人保健施設が、非常用の食料等の備蓄を行っており、連携している。感染症対策は消毒、マスク着用、換気を徹底して行い、密などところには出掛けない等、対策を定め職員同士で意識を高めて取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期研修(接遇)において理解を深め、又日々の関りの中での声かけ等には十分に留意しております。	接遇、プライバシーの確保の研修を定期的に行っている。職員は利用者に寄り添い、声掛けのトーンや大きさ、スピーチロックにならないように、言葉遣いにも配慮し支援している。トイレ介助時はさりげなく声掛けし誘導し、ドアを開けたままにしないよう徹底している。呼び名は利用者に要望を聞き、「さん」付けで呼んでいが、希望により「ちゃん」付けの人もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いが表現出来るように普段から関係性作りに努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に業務優先ではなく、ケア優先の必要性を日々職員間で共有し実践しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る部分を阻害する事無く状態に合わせた支援に努めております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る部分の見極め、状態に合わせた食事の提供に努めるべく行っております。	副菜は3食とも隣接する老人保健施設から届けられている。事業所では主食とみそ汁を作り、届けられた副菜を温め直して提供している。敬老会や誕生会には寿司の出前をするなど、楽しく食事ができるよう努めている。利用者の状態に合わせ、事業所でさざみ食、トロミ食など食べやすくアレンジして提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理された食事を提供し状態に合わせたカロリーが摂取出来るよう栄養補助食品等を使用し体調維持に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時に応じ訪問歯科診療を受け出来る部分を阻害する事無くケアの実践をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易なポータブルトイレを使用する事無く出来る部分を阻害する事無く排泄が出来るように支援しております。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はリハパンを使用したり、タイミングに合わせてトイレに誘導するなど、トイレで排泄ができるよう支援している。夜間はポータブルトイレや紙おむつ、トイレ誘導など利用者に合わせて支援している。便秘対策にはゼリーや乳製品を摂ったり、医師が処方する薬を使用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケア記録、申し送り等から排泄状況を把握して必要時に排便を促すお茶等の提供と日々の体操を行っております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調から又は拒否等もあり定期入浴ができない場合、又は希望に沿った入浴が出来るよう柔軟な支援に努めております。	週2回を基本に、湯は都度交換し入浴支援している。できるだけ希望にそい、入浴できるよう支援しているが、状態を見てシャワー浴等に変更するなど清潔保持に努めている。入浴拒否がある場合は、職員を替えるなど対応を工夫している。入浴剤を使用し香りを楽しみながら入浴する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた就寝時間帯の支援、安心できる環境と声かけに努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	委員会の委員が処方箋管理を行い処方薬変更の場合の職員共有に努め、用法、用量については職員全体が共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、笑顔が出せるような、雰囲気作り、楽しみを日々の関り、又はレクリエーション・活動で行っております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	閉鎖的になりがちなホーム生活を御家族と協力しながら本人の希望が叶えられますよう支援を行っております。	感染予防を重視し取り組んでおり、今年度の外出支援はほとんどできていない。今後状況を見ながら、ホーム内委員会で検討する予定になっている。室内で行うレクリエーションを増やし、気分転換になるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金体制は行っておりませんが少額のお金を所持する事は厭わず支援に努めております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からのお手紙、馴染の関係からの封書等の支援を行っております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に合わせた居室ドアの不快な光等を遮り共有スペースにおいては季節感が味わえるように配慮しております。	リビングは南に面しており、陽射しが入り明るい。時計やトイレの表示は見当識に配慮し設置してある。くつろげるようソファを置いている。大きなぬいぐるみやお雛様、季節を感じさせる手作りの貼り絵などが飾られている。温・湿度は職員が管理し感染症対策や換気も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置等、利用者様に合わせて提供出来るように支援を行っております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人に合わせた家具等が使用できるよう説明し好みに合わせた配置等を行っております。	居室の入り口には、利用者の名前か花の名が書かれた表札が掛けられている。エアコン、低床型ベッド、クローゼット、洗面台、ナースコールが備え付けてある。利用者は過ごしやすいう、馴染みの物やテレビなどを持ち込んでいる。居室担当職員が部屋の整理を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペース、居住スペースのバリアフリーはもとより状態に合わせ自立した生活が出来るような構造になってます。		